

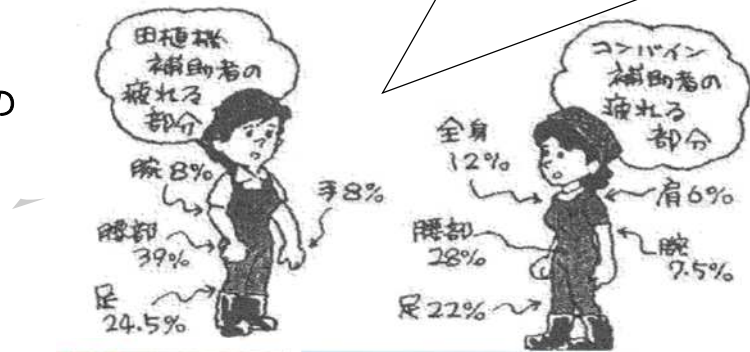
# 「伊佐の女性農業者、皆で学ぼう！話し合おう！」 ISAファームレディ交流会

令和2年度「伊佐市女性農業経営士の会」（会員11名）では、若手女性農業者との交流を目的としたISAファームレディ交流会や市長との意見交換会を開催しました。その様子をご紹介します。

## ISAファームレディ交流会～農作業(働き方)の改善と農業機械を学ぶ～ R2.12.7

令和2年12月7日、JA北さつま育苗センターで、働き方の改善について事例の紹介や、農業機械メーカーの方を講師に農業機械の操作の実習を行いました。

女性農業者の働き方～あなたはどうか？～



オートトラクターを試運転中。両手を離して走行しています。



農地の貸し借りには、地域での信頼を得ることも必要。

## ISAファームレディ伊佐市長と語る会 R3.2.12

令和3年2月12日、令和2年11月に就任された橋本欣也新市長と、語る会を行いました。

伊佐市ではここ数年、5名～10名の新規就農者がおり、定着のためには農地の確保や技術・知識の習得が必要です。次代の担い手の確保や交流促進など市長と語る機会となりました。



## 伊佐市女性農業経営士の会ミニ講座 ～イノシシ・シカの被害を防ぐには冬の対策が肝心です～

「イノシシやシカの被害を減らしたい」との思いから「鳥獣を知る」ためのミニ講座を令和3年2月12日に伊佐市林務課鳥獣対策係長を講師に行いました。

今年は現状把握のためセンサーカメラを設置し被害を軽減するプロジェクトに取り組んでいます。



ミニ講座で、鳥獣の特徴を学ぶ



アナグマの侵入場所を確認

Letter From Agricultural Development Expert

# 普及だより

〇発行 始良・伊佐地域振興局農林水産部 農政普及課 伊佐市駐在  
 〇所在地 伊佐市大口里53-10 メール ookuchi-fukyu@pref.kagoshima.lg.jp  
 〇TEL 0995-23-5127 OFAX 0995-23-5137

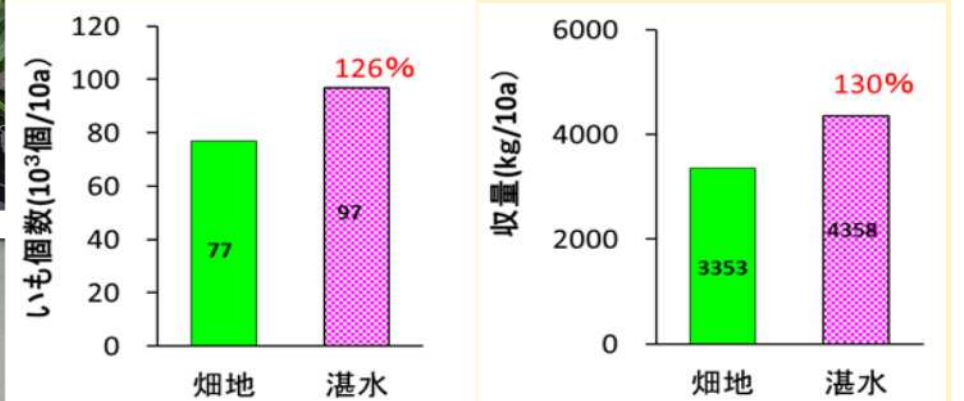
## 水田で栽培する「湛水さといも」の紹介

湛水さといも栽培は、通常通り畝を立て、6月上旬から湛水を開始し、畝間に水深10cm程度を維持しながら、3か月程度湛水を行う栽培法です。令和3年度から伊佐市でも栽培に取り組んでいます。用水路から水を入れるだけで、スプリンクラー等の設備は必要ありません。

### 湛水栽培の特徴



〇いも個数、収量が2～3割増収  
湛水栽培では、畑地（慣行）栽培に比べて、いも個数、総収量が2～3割程度増加します。



収穫時の種芋の着生状況

収穫時のいも個数、収量(品種：石川早生丸) (県農業開発総合センター調べ)

### 湛水栽培の留意点

1. 栽培に適した排水のよい水田を選定する。湛水栽培でも湿田や礫の多い水田は栽培に適しません。
2. 湛水栽培に適した品種（石川早生丸、土垂、セレベス等）を選定します。
3. 植え付け時期は3～4月。植え付けが遅いと減収します。
4. 雑草対策が必要。植え付け前、生育中に除草剤で処理します。
5. 疫病やセスジスズメなどの病害虫の防除は必要です。
6. 収穫は11～1月中旬になります。品種により収穫労力はかわります。

栽培に興味のある方は、JA北さつま営農センター（TEL24-2611）、農政普及課伊佐市駐在（TEL23-5127）にお問い合わせください。



### ◎ 耕畜連携による水田の高度利用の推進について

伊佐地域では、水田における水稲農作の利用があまり進んでいません。一方で中山間地帯の畜産農家では、鹿やイノシシの粗飼料の食害が年々深刻さを増してきており、生産コストを引き上げ、経営を悪化させています。そこで、令和2年に平場の水田で水稲や大豆を栽培している耕種農家と中山間地帯の畜産農家と連携し、水稲農作でイタリアンライグラスを栽培する取組を行いましたので、紹介いたします。

#### ★耕種農家と畜産農家の要望に基づく耕畜連携の条件整備★

##### 1 借地の期間

○水稲栽培後 10月上旬～4月末 ○大豆栽培後 11月下旬～5月末

##### 2 借地料 二毛作助成金相当額を支払う

##### 3 稲わらを回収する場合 4千円/10a (耕種農家は米収穫後速やかに畜産農家に連絡)

##### 4 イタリアンライグラス栽培

(1) 種子は前もって畜産農家が準備し、耕種農家へ渡す

(2) は種は、水稲の場合、耕種農家が立毛状態で収穫後、ミスト機等で播く。水稲収穫後播く場合は耕耘・鎮圧も行う。大豆収穫後は、耕うん・は種・鎮圧を行う。

(3) 収穫は、畜産農家が行う。

#### ★水稲収穫前の立毛状態でのイタリアンライグラス種子は種のメリット★

立毛播き栽培では、イタリアン種子を水稲収穫の1～2週間前に播き、耕うん・鎮圧を省いても、イタリアン種子の発芽に問題がないので、省力化につながります。



#### ★稲わら回収の前提条件

稲わら収量	450kg
稲わら単価	25円
稲わら代金	4,000円
交付金概算	10,000円
ロール1個製造単価	800円

#### ★稲わら回収で得られる利益

収入金額	15,250円
ロール代金	1,653円
稲わら代金	4,000円
諸経費	800円
経費合計	6,453円
所得金額	8,797円

※労賃は含みません。

#### ★イタリアン栽培の前提条件

イタリアン乾物収量	510kg
イタリアン乾草単価	57円
イタリアン種子量	4kg
イタリアン種子代金	1,600円
ロール1個製造単価	800円

#### ★イタリアン栽培で得られる利益

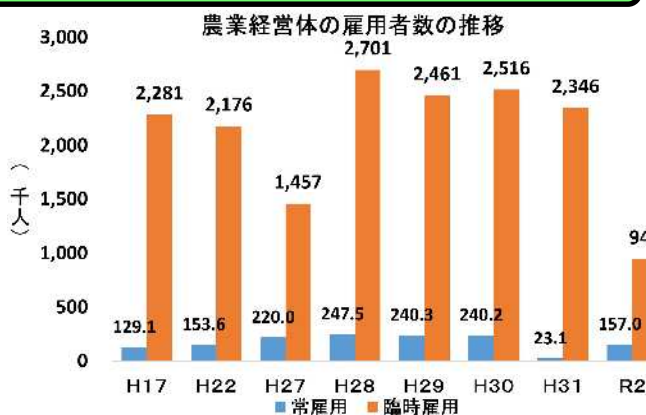
収入金額	29,045円
種子代金	1,600円
ロール代金	1,872円
諸経費	2,500円
追肥代金	2,062円
経費合計	8,034円
所得金額	21,011円

令和2年度の耕畜連携の結果を基に行った試算では、稲わらを回収することで10aあたりに8.8千円、イタリアンを栽培することで21千円、二毛作の交付金10千円を合わせて約39.8千円の利益が見込まれました。

### 農業現場における労働力確保について

近年、人口減少及び少子高齢化により全国的に農業の労働力不足が言われています。農業全体の常雇用者数は、この10年の内に一時期は1.6倍(H28)まで増加しましたが、R2では10年前と同程度になり、臨時雇用には4割程度まで落ち込んでいます。ここ数年必要な人材を確保できていない産地や担い手が多くなってきています(右グラフ)。

伊佐市においても基幹的農業従事者は65歳以上が74.1%で、労働力不足の解消・労働力確保が課題となっており、担い手にとっては経営改善に必須の取組となっています。



#### 1 近年見られる労力確保の方法と例

①農の雇用事業の活用	農業法人等に対し、新規就農者に行った研修にかかる費用を助成する事業で、年間最大120万円、最長24ヶ月助成を受けられる。窓口は、鹿児島県農業会議所。
②他の経営体等との連携	農繁期の異なる雇用主や産地同士が連携し、期間を分けて同じ労働者を雇用もしくは相互に紹介する。作業スキルや意識の高い人材の安定確保につながり、雇用される側にとっても次の仕事を探す手間が省けるなど双方にメリットがある。
③農外との交流	異業種と連携し、アルバイト等の情報共有や相互紹介を行ったり、都市部からの農業体験希望者を募集する以上、新規就農者確保にもつながっている。

#### 2 雇用主の受け入れ体制づくり

①労働条件の遵守	賃金、就業時間、休憩時間、作業服の貸与等
②作業環境の整備	作業場の安全管理、休憩所・トイレ等の確保整備
③集落民とのコミュニケーション	農村部においては、集落民の不安感を払拭するため、労働者と最低限のコミュニケーションをとれる工夫が必要。

#### 3 期待される労働力と可能性

①女子力	日本政策金融公庫の「令和元年7月農業景況調査」によると、①労働力に占める女性従事者(パート、研修生除く)の割合が「増加している」担い手が、相対的に増えてきている。②売上規模が大きい経営体ほど女性が経営へ関与している割合が高く、③女性が「経営管理」を担当する割合が高くなっている。経営発展には女性の経営感覚が不可欠。
②農福連携	近年障害者の働く場として農業も注目されており、農業法人と社会福祉法人との連携がなされている。一定の配慮は必要なものの、作業に取り組む真摯な姿勢が雇用主側にも好感を持たれており、相互理解の下、地域における今後のさらなる広がりが期待されている。
③外国人材の導入	2019年4月の出入国管理法の改正により、外国人の新たな在留資格が創設され、就労できる特定技能外国人は、即戦力となるスキルと経験を持つ優れた人材であるといわれている。受入側としては、彼らが安心して働ける労働環境を整え、外国人観光客に接するときと同様、温かく迎え入れることが大事である。
④新規就農者等の定着	新規就農者が2、3年で離農する理由として、農作業や収入等実際農業をしてみると想定していたことが違っていた事や、地域になじめなかった等がある。受入側の十分なフォローアップが必要である。



農業就業人口が減少する中で、雇用者は日本の農業を支える貴重な戦力となっています。産地では、雇用者の通年雇用や、農繁期における一時的な労働力の確保などの課題に対して、外国人材も含め多様な人材の活用による労働力の確保に向け、取り組んでいく必要があります。